

令和8年度

児安小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

PBSを活用した授業の実践 ○児童の実態に応じたカリキュラムマネジメントによる基礎学力の定着 ○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（話し合い活動の充実） ○できるようになったことの自覚・共有につながる評価の工夫
--

校長 南郷 孝嘉
-------------

学力向上推進員 永井 ももこ
-------------------

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告、校内研修(ステップアップテストや学力テストの結果について)等を踏まえ、取り組み状況の把握を行う。
---

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○前向きに真面目に課題に取り組むことができる。 ○新しい技能や学習の習得に積極的に取り組む。 ○ペア学習やグループ学習で、自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いて自分の考えをまとめたりすることができる。 ●集団行動の中で、規律がまだ十分に身につけていない様子が見られる。 ●語彙が豊かであるとは言えない。 ●学力の基礎(姿勢の保持、声の大きさ、家庭学習等)が定着していない。 ●基本的な問題には意欲的に取り組むが、応用問題になるとじっくり考えようとしにくい。 ●調べたり探したりして書いたり、自由に発想して考えたりする力が乏しい。	・学習の基礎・基本が定着している。 ・基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、それを様々な学習場面や生活の中で活用することができる。 ・辞典や資料、ICT機器等から適切に情報を収集することができる。 ・友達の見聞き、自分の考えを深めたり修正したりする力を身に付けている。 ・読書活動の習慣を身につけている。 ・読書や辞書、ICT機器の活用等によって語彙を増やし、それを表現に用いることで語彙を身につけることができる。	・音読指導や、習った漢字は使うなどの日常的な指導を徹底して続ける。 ・授業終了の5～10分を活用し、既習事項の確認や練習問題に取り組む時間を設ける。 ・生活と関連するような導入を工夫する。 ・授業の中で、自力解決の時間を十分に確保し、個別指導を徹底する。 ・単元の中で、応用問題を解く場面を設定する。 ・児童一人一人のつまずきを捉え、学習状況の改善を図る。 ・学習活動のスマールステップ化や細分化を図り、個々の児童に対応できるようにする。 ・AIドリルなど、児童の個別学習場面でICT機器を効果的に活用する。 ・月末に「チャレンジテスト」を行い、学力の定着を図る。 ・生活をイメージさせるような資料の提示に、教師が効果的にICT機器を活用する。 ・学びポケットを積極的に活用していくための研修機会を設ける。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを進んで発言できる児童が多い。 ○音読を上手にすることができる。 ●話し合い活動に積極的に参加し自分の考えを伝え、相互に意見を出し合い交流するスキルに、個人差がある。 ●人の意見や話を聞くことが苦手である。 ●友達の見聞きを否定することはないが、全てをよと認めようとする傾向がある。 ●学習の振り返りを、具体的に書いたり伝えたりすることが難しい。 ●大切なことや話の要点を理解する力が不十分である。 ●課題についてじっくり考えたり、思考を豊かにめぐらせ自由に表現したりする力が不十分である。	・多面的な見方や考え方ができ、自分の考えを一人一人がもち、それを伝えたり、友達の見聞きを認めたりすることができる。 ・語彙を習得し、いろいろな表現方法を知ることができる。 ・学習活動に積極的に取り組み、自分の意見や考えを自信をもって発表することができる。 ・新聞や書籍、インターネットから必要な情報を見つけ、自分の意見をもち、書いたり伝えたりすることができる。	・児童が自分事として考え、自分の意見を伝えたいような発問の工夫を工夫する。 ・話し合い活動や少人数活動での意見交流の場面を意図的に設定する。 ・朝の会の1分間スピーチや、児童朝会での意見発表の場面を設定する。 ・自分の考えや立場を筋道を立てて話したり、書いたりすることができるよう、発達段階に応じた指導を行う。 ・毎週の「あわっ子タイムズ」など、新聞をうまく活用した課題に取り組む機会を設ける。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○読書活動に向かう環境が整っており、読書が好きな児童が多い。(本に興味を持って読むことができる。) ○できるようになったことを続けられる力がある。 ●基本的な生活習慣が不十分な児童がいる。(早寝やメディア時間、朝ご飯等) ●主体的に取り組む場面での二極化(積極的と消極的)が進み、発表する児童が固定化されている。 ●家庭と連携した「おうち読書」の取り組みが十分に定着していない。 ●宿題の提出率は高いが、自主学習の時間は、個人差が大きい。	・基本的な生活習慣を身につけることができる。 ・成功体験を積み、自分の意見や考えに自信をもって発表することができる。 ・目標をもって読書や学習に向かい、疑問点や興味関心のある事柄を進んで調べたり学習を深めたりできる。 ・学習過程において、学びを振り返り、学習の達成度や自分のよさ、今後の課題等を自覚することができる。 ・自分の「できる」「できた(成功体験)」を増やし、達成感を味わい、進んで学習に取り組むことができる。	・指示を簡素化し、取り組みやすくする。 ・活動の流れやルーティーンを明確化する。 ・養護教諭や栄養教諭との連携を行い、生活指導を並行して行う。 ・体験的な活動を増やす。 ・ポジティブな行動支援に年間を通して計画的に取り組む。 ・学習の進め方や振り返りの手引きを示し、児童が見通しをもって自ら考えることができるようにする。 ・児童の前時の振り返りや生活の中の疑問を本時の導入で取り上げるなど、児童の思考の流れに沿った授業展開を工夫する。 ・児童のできたことを可視化して称賛する。 ・「児安ブックリスト」「おうち読書」「スマイル読書」等を活用し、読書をする時間を意図的に設け、読書推進活動を実施する。 ・物語、伝記、新聞など、様々な分野の本に触れられる環境を整える。 ・市立図書館や県立図書館との連携を図り、効果的に利用する。			